

グループ提言 発表一覧

| 発表順 | 賞 | 大学名 | ゼミ名 | 発表テーマ |
|-----|--------------|---------------------------------|----------|---|
| 1 | | 登別市若手職員チーム | | 登別市に必要なもの |
| 2 | | 首都大学東京 | 羽貝ゼミ | 地域と学校の協働 |
| 3 | | 同志社大学 生命医科学部医工学科学ス研究室&政策学部 風間ゼミ | バイオメカニクス | KOI(こい)のぼりべつ ～のぼりべつインパクトシティ構想～ |
| 4 | 登別市議会 議長賞 | 立教大学コミュニティ福祉学部 | 原田ゼミ | のぼたま大作戦!!ワン・ツー・スリー ダア!! |
| 5 | 優秀賞 | 埼玉大学経済学部 | 斎藤ゼミB | 再発見!登別の魅力~Take Photo in Noboribetsuプラン~ |
| 6 | 優秀賞 | 埼玉大学経済学部 | 斎藤ゼミA | つながる子育て支援の“わ” |
| 7 | | 日本大学法学部 | 外山ゼミナール | ☆きらり☆と輝く登別ニューフロンティア計画 |
| 8 | | 同志社大学 | 真山ゼミ | 登別観光の玄関口は『登別温泉駅』に |
| 9 | 登別市長賞 | 龍谷大学・同志社大学 | 富野・今川ゼミ | 登別改革論~人「財」育成、このままでいいの?~ |
| 10 | | 岩手県立大学総合政策学部 | 田島ゼミ | 登別ボランティア基金~エンマ基金~ |
| 11 | | 日本大学法学部 | 福島ゼミナール | まちおこしから鬼おこしへ~世界都市への第一歩~ |
| 12 | 最優秀賞 | 同志社大学大学院 総合政策科学研究科 | 今川ゼミ | 地域が一体となった登別温泉観光に向けて |

最優秀賞

同志社大学大学院総合政策科学研究科 今川ゼミ
『地域が一体となった登別温泉観光に向けて』



わたしたちが考える登別温泉の課題は、温泉地域以外の住民にとって登別温泉との距離感があるということです。つまり、市全体が一体となった観光ができて

いないということです。

この課題の解決策として、現代版湯治であるヘルスツーリズムによる地域の一体化をわたしたちは考えました。ヘルスツーリズムとは健康志向の長期滞在型の旅行形態のことです。

導入により期待される効果としては、第1に健康志向という付加価値を付けることで、市民の利用の促進を図ることができます。

第2として、地元の食材を使った健康な食材を提供することで、地産地消が促進されます。

第3として、長期滞在が基本ですので、市内の各スポーツ施設などを利用していただくことができ、温泉地域以外の地域に経済効果が波及します。

第4として、地域住民だけでなく、温泉観光に対する意識が変わってきている新たな個人利用の顧客を開拓できます。そして、長期滞在型旅行のニーズが高い欧米人の旅行客を呼び込むことができます。

そこで、ヘルスツーリズムについての提言です。

まずは、どういう温泉に入ったらどういう効能があるかを案内できる温泉アドバイザーを育成します。

それから、健康志向で長期滞在をしてもらうため、安価な宿泊施設や宿泊プランを作ります。そして、いろいろなお湯に入れるように外湯を増やすか、あるいは内湯を外湯化します。

また、市民との協働という観点から、登別温泉で健康をテーマとした食育・郷土史・温泉学などの生涯学習を行うことで、いろいろな交流がまちの中に生まれてくると考えます。

地域の意識が一つになる。これが今回提案させていただいた提言の一番の要点です。市民とのかかわりのない観光地は、必ずその先、行き詰まると思います。そのため、市民と一体となったまちづくり。そしてキーワードとして健康づくりを提案させていただきました。

優秀賞

埼玉大学経済学部 斎藤ゼミA
『つながる子育て支援の“わ”』



現在、登別には子育てを応援・支援する制度が多数存在しますが、これらは個別の選択であり、つながりがゆるいとわたしたちは考えました。子育てをする上で、

さまざまな政策のつながりが弱いとサービスを受ける際に不便となることや、きめ細やかなサポートが難しく、子育てへの不安が取り除かれにくいと思われます。そこで今回提言するのは、子育てへの不安、

疑問の解消・軽減を目指すきめ細やかな子育て支援プランです。

まず、もっと市民が使える情報共有の場として、会員制の地域SNS（人と人とのつながりを促進・サポートする、コミュニティ型のWebサイト）を作り、子育てママが子育ての悩みを共有し、共に解決する糸口を作ります。

次に、赤ちゃんスペースという授乳やオムツ換えが可能なスペースを公共施設やレストランなどに設置し、子育て中の親が気軽に外出でき、交流できる環境を作ります。

そして、既存の子育てサロンはそのままに、温泉地での子育てサロンの実施や、合同サロンを開催します。このサロンへの移動手段としては、無料の子育てバスを運行します。また、既存のファミリーサポートについても、援助会員と依頼会員の交流会を同時に開催することで、地域全体で子育てを通じた交流の“わ”が生まれるものと考えます。